

井筒屋だより

第五十三号
令和七年
三月号

井筒屋から全国の遺産の旅に出よう！

日本遺産の御周印が始まります

「かさましこ」をご存知でしょうか。焼き物の産地である我が街笠間と栃木県益子町を合わせた言葉で、「かさましこ」兄弟産地が紡ぐ「焼き物語」として日本遺産に登録されています。

日本遺産とは、地域独自の歴史や文化、伝統などのストーリーを遺産として認定するもので、現在、全国で104か所が登録されています。「かさましこ」は令和2年に登録を



受けました。ほかに、「政宗が育んだ」「伊達」な文化」(東北)、「1300年つづく日本の終活の旅」(西国三十三所観音巡礼) (近畿)、「国境の島 吉岐・対馬・五島」(古代からの架け橋) (九州)など、魅力的な遺産があります。

これらの日本遺産を巡るための「御周印」が、4月1日から全国で始まります。井筒屋では専用の御周印帳を販売し、御周印を押印します。御周印帳は一冊税込2000円。御周印の押印代は一か所300円です。「かさましこ」を封切りに、全国の魅力ある日本遺産に触れる旅に出かけてみませんか。



令和7年度井筒屋歴史講座 笠間の歴史を深掘りします！

令和7年度の井筒屋歴史講座が下記の日程と内容で開催されます。いずれも午前10時から、参加費は300円。講師は笠間史談会会長の南秀利先生です。第1回については、下記のイベント情報をご覧ください。

内容	開講日	申込開始日
第2回 笠間藩の戊辰戦争一鳥羽伏見の戦い・小山戦争・会津戦争ほか	6月3日(火)	5月1日(木)
第3回 戦後80年、太平洋戦争を検証する	8月5日(火)	7月3日(木)
第4回 笠間の地場産業一笠間焼と稲田花崗石	10月7日(火)	9月4日(木)
第5回 笠間の神社一稲荷神社・愛宕神社・三所神社・小原神社など	12月2日(火)	11月6日(木)
第6回 笠間の寺院一楞嚴寺・西念寺・鳳台院・如意輪寺・不動院ほか	2月3日(火)	1月8日(木)



3～4月のイベント

万葉亭小太郎の井筒屋の夜会
～春爛漫の会～

日 時：3月22日(土) 午後6時30分(開場6時分)
出 演：万葉亭小太郎 麴家こうじ 好文亭鳩若(落語)

小太郎、こうじ、鳩若の3人が、春の夜にふさわしい唄をお送りします。

木戸銭：500円



第1回井筒屋歴史講座

笠間時朝・蒲生郷成・浅野長直の笠間城築城

日 時：4月1日(火) 午前10時～11時30分
受付9時30分から

講 師：南 秀利(笠間史談会会長)

参加費：300円

予約開始：3月6日(木)

※資料準備のため必ずご予約願います



かさま歴史交流館井筒屋 笠間市笠間 987 電話 0296-71-8118

開館時間 午前9時～午後9時

～このお便りでは、井筒屋の日々の様子やイベントの開催予定等をお知らせしています～



歴史こらむ

常陸山の思い出

前回に続き、古い笠間市報(昭和44年11月)に掲載された村田青子さんの回想録を紹介したい。

* *

私は茨城の生んだ名力士、水戸の士族出身の常陸山谷右衛門を見たことがある。(中略)三人引(3人で引く人力車・編集部注)で旅館井筒屋を出入りする人力車上の常陸山である。

(中略)

東の横綱が常陸山、西の横綱が梅ヶ谷、大関が国見山、駒ヶ嶽という顔触れで、宿屋は井彦、恵比寿屋、笠間館、大坂屋、海老惣など、その頃には、宿屋にも番付があっ

たようなものだった。

勝負を終わった常陸山が、一と風呂浴びた浴衣姿で井筒屋の三階に現れた。彼は三八貫という巨漢である。西の梅ヶ谷藤太郎はアンコ型で四二貫といわれた。

常陸山の足は太かった。路上から仰ぎ見る子供の目には仁王さんか、上野の西郷さん以上の足で、全く驚異そのものだった。六〇年後の私の臉にも、鮮やかに浮かんでくる。

場所は今の笠間製陶会社近くの畑だった。その頃は毎年のように巡業が来て、或る年は八坂神社左下の当時馬市場だった平地に、小屋掛されたこともあった。

* *

笠間場所後、この巡業で思いもよらぬことが起きた。それは次号で紹介したい。

(雄)



水戸市内にある常陸山の銅像

【井筒屋ニュース】

真冬のメロディが響く

アルトホルンとピアノのコンサートが開かれ、クラシックや日本の叙情歌などの名曲が演奏されました。



語り部の声に耳を傾ける

笠間の民話を語る会のメンバー14人が1話づつ、笠間に伝わる民話を語りました。



落語と歌を満喫

「万葉亭小太郎の井筒屋の夜会」で、落語と、流しのてっちゃんによる歌が披露され、楽しいひと時となりました。

九ちゃんの思い出を書いてください！



井筒屋2階の「坂本九写真展示パネル」が人気です。

そこで、「九ちゃんノート」を置かせていただきました。坂本九ちゃんにかかわる思い出を、ご自由にお書きください。興味深いものは、「井筒屋だより」に掲載させていただきます。

【後記】

先日のニュースで、1世帯当たりの納豆の年間消費額は、福島市が全国1位で、水戸市は5位でした。福島市は2年ぶりにトップに返り咲き、市の関係者が喜びの記者会見に應じていました。

これって、そんなに喜ばしいものなのか……と、いつも疑問に感じます。それぞれの都市の市場規模や家計の状態、人の好みには差があるもので、納豆の消費額と、住民の生活の満足度は、簡単に比例するものではないと思うのです。

水戸も含め、茨城県は納豆の名産地。それだけでなく、他にもおいしいものが沢山あります。なので、納豆の消費額が1位である必要はない。そんな気持ちでいたいものです。

(雄)